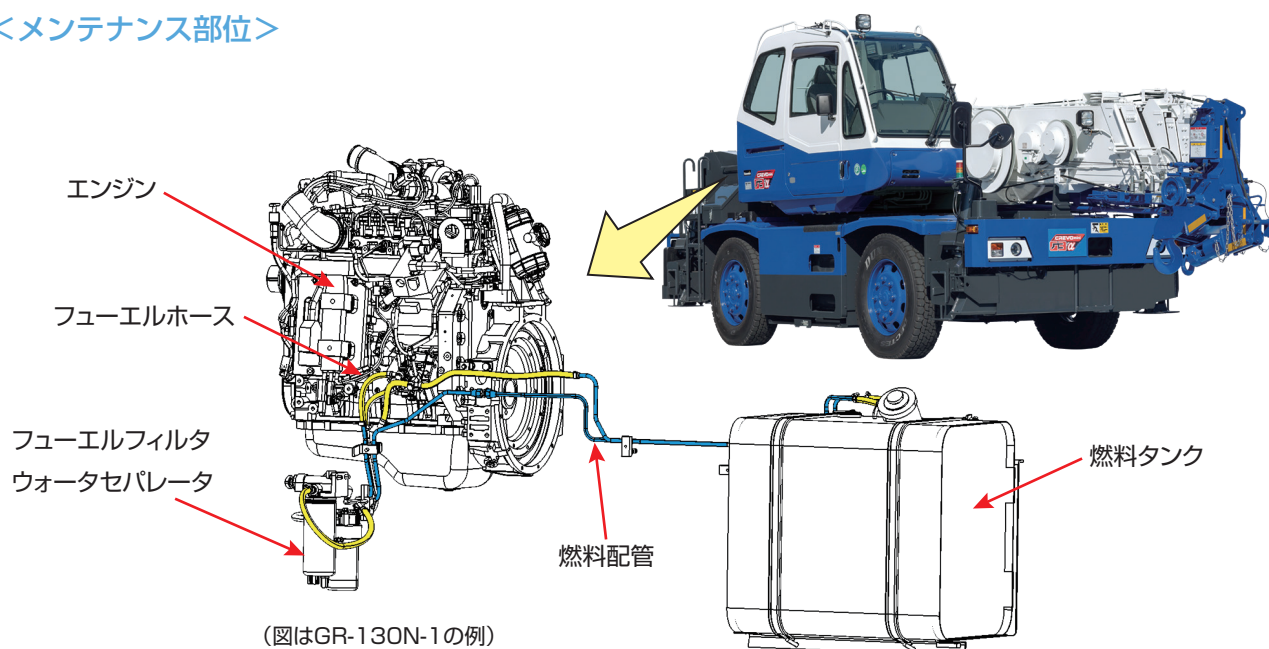


エンジンの燃料系部品のメンテナンスについて

燃料系の部品は、メンテナンスせずに使用を続けた場合、エンジントラブルや燃料漏れなど重大不具合につながるおそれがあります。また、経年使用により劣化する部品や定期交換が必要な部品がありますので、機械を長く安全に使用するために適切な点検・メンテナンスの実施をお願いします。

＜メンテナンス部位＞



＜メンテナンス項目＞

部位	内容	点検・整備間隔	備考
フューエルフィルタ ウォータセパレータ	水量点検	日常・定期点検	部品交換・エア抜き後は、こぼれた燃料をよく拭き取ってください。 こぼれた燃料は火災の原因になります。
	水抜き	警告点灯時	
	交換	500h・6カ月	
フューエルホース	交換	2年	
燃料タンク	水抜き	1000h	外気温の温度変化によって燃料タンク内に水が溜まりますので、定期的に水を排出してください。 燃料タンク清掃時にドレーンプラグから沈殿物を排出してください。
	清掃	600h	
	ストレーナの点検・洗浄	600h	
エンジン・燃料配管 等 燃料系部品 全般	燃料漏れの有無	日常・定期点検	燃料漏れは火災の原因になります。 燃料漏れを発見した時はただちに修理をしてください。
	交換	異常時	

※「交換部品、点検・整備間隔」は「機種、エンジン型式」によって異なりますので、詳しくは取扱説明書およびメンテナンスノートを参照願います。

＜使用燃料に関する注意事項＞

規格に適合していない燃料を使用すると燃料装置の損傷やフィルタ早期目詰まりなど、エンジンが故障する原因になります。燃料はJIS規格（JIS K 2204）の軽油を使用し、規格外および粗悪燃料の使用、混合は決してしないようにしてください。また、給油の際は、燃料タンクにゴミや水分が入らないように十分注意し、注入キャップは確実に締めてください。

粗悪燃料の特性例	発生不具合例
異物(個体微粒子)が多い	燃料ポンプ・インジェクタ等の摩耗や固着。燃料フィルタ等の早期詰まり
含水率が多い	錆による燃料潤滑部の摺動・作動不良
酸化安定度が悪い	燃料配管・燃料タンク等の内部腐食やスラッジの発生
動粘度が低い	燃料潤滑部の固着や摩耗の促進
硫黄分が多い	腐食摩耗による燃料系部品の作動不良や損傷

燃料（軽油）は低温になると凍結し、エンジンの出力不足やエンジン始動に影響する可能性があります。寒冷地で使用するときは、早い段階で現地のスタンド等で給油し、燃料タンク内の燃料を外気温に合った燃料に替えて使用してください。

外気温度	-5℃以上	-15℃以上	-25℃以上
軽油の種類	JIS 2号軽油	JIS 3号軽油	JIS 特3号軽油

＜メンテナンス不良による不具合事例＞

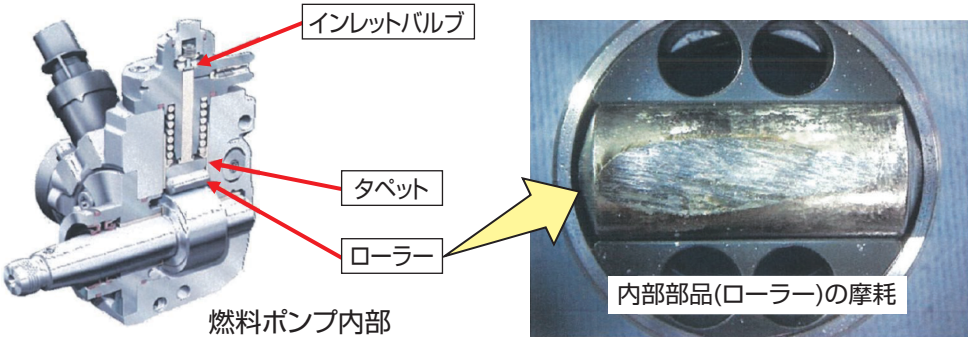
【事例1】フューエルホースの燃料漏れ

事象：ホースの損傷により燃料が漏れる。
最悪の場合、火災に至るおそれがある。
原因：経年使用によるホースの劣化。



【事例2】燃料ポンプの内部損傷

事象：ポンプ内部の摩耗や傷により高圧燃料が送り出せず、エンジンが停止したり、エンジンの始動ができなくなる。
原因：燃料中の異物や粗悪燃料の使用により、燃料ポンプ内部の潤滑性が低下し、ポンプ内部の損傷に至った。



メンテナンスのご用命はタダノ指定サービス工場へ



株式会社 タダン CS企画部作成